

## 祝 ノーベル賞 医師 小野 智子

あけましておめでとうございます。昨年は暗い話題の多い中、ひとときわ輝くニュースがありました。日本人ノーベル賞ダブル受賞です。一般のニュース番組から、ワイドショーまで毎日放送する力の入れようで、今回ほど詳しく報道されたことはなかったでしょう。その理由としてダブル受賞、さらに田中耕一さんの人柄に注目が集まっていたということは皆さんも一致することだと思います。

さて、須藤病院にかかわる皆さんにとって、今回のノーベル賞は結構身近なことでもあるということをお知らせします。

ノーベル化学賞受賞田中耕一氏の出身地は富山県です。実は須藤病院と富山県とは結構関係が深いのです。私たち二人（小野聡、小野智子）の出身大学は富山県にある富山医科薬科大学であり、院長夫人の弟（伊勢崎市 山田内科クリニック 山田俊彦院長）はこの大学の一期生です。それだけではありません。私（小野智子）の実家は富山市なのですが、田中さん



富山市から望む雄大な立山連峰

とは同じ高校（富山中部高校）、同じ小学校（富山市立八人町小学校）で、しかも実家同士は目と鼻の先で、私の家のリビングからは田中耕一氏が高校三年まで使ったといわれる勉強部屋が見えるほどなのです。テレビや新聞で知ったことには、田中耕一氏が科学に興味を持つようになった、影響を与えた人として、小学校時代の理科の先生である沢柿教誠先生を挙げていましたが、私も小学四年の時に担任をしていただき、実験の面白さを教わったことを覚えています。こんな身近なところで世界的なすばらしい賞が出たことに、驚きとうれしい気持ちでいっぱいになりました。田中さんの人気の秘密は富山でつちかわれた「地道な努力家」と「変化を見逃さぬ観察眼」の両方を兼ね備え、それでいておごることなく柔らかいものごし、といったところでしょうか。今回の受賞を群馬の地から皆さんと一緒に祝福したいと思います。

「祝・ノーベル賞！」



## 院長 須藤 英仁

明けましておめでとうございます。前回のオアシス30号でお話しましたが、現在のIT革命は著しいものがあります。病気に対し

での情報も非常に多く、医師でさえも迷うことがある程です。

今回の『オアシス』も、病院有志の手によって、院内で作成・印刷されたものです。この『オアシス』で、今年も何とか皆様にお役に立てる医療情報を、各医師が分担して執筆・掲載していきたいと思えます。また院内の変化・その時々での改善なども積極的にお知ら

# リハビリテーション診療部より皆様へ

理学療法士 菅根 利明

近年わが国では高齢化社会が進み、寝たきりとなったり、障害をもったりする高齢者が増えつつあります。また外科・整形外科による手術などにより、手術後の安静を必要とした人は一時的に身体の不自由な状態となりやすいものですが、誰もが健康でもとの生活に戻れることを望んでいるはずです。当院ではリハビリテーション診療部という部門があり、このような方々を対象にリハビリが行われております。場所は病院敷地内の奥の方、赤いレンガの建物の中一階にあり、広々としたよい環境で外来及び入院患者さんを対象にしています。このたびリハビリテーション診療部では今年の4月より、2名の国家資格者を迎えることができました。その一人は野口初男作業療法士で、もう一人は内田浩三

郎理学療法士であります。これによりリハビリテーション診療部に理学療法士2名、作業療法士1名、助手1名の合計4名となり、ますます専門的なリハビリテーションの提供が図れることと期待できます。ここで、理学療法士・作業療法士とあまり皆さんには聞きなれない言葉が出ています。簡単に説明しますと、理学療法とは病気、けが、寝たきりによって身体が不自由となった方々に対し、起きる・立つ・歩くなどといったような、基本的な動作や機能回復・維持を図る医療の一部であります。作業療法とは、理学療法と同様に、不自由になった方々に対し、器具や道具を使い、実際の生活に近い動作などを獲得していこうという医療であります。

リハビリテーションの中にはこの他に言語聴覚士、視能訓練士、精神保健福祉士などがあり、数種の専門職種が連携を取り様々な方面から医療に取り組んでおります。実際、具体的にどの様な患者さんが対象になっているのかと申しますと、脳出血・脳梗塞・骨折・脊髄損傷をはじめ心筋梗塞などの心臓病や肺気腫・糖尿病リウマチ、そして内臓手術・関節手術の後の機能回復など、日常生活の動作に不自由をもたらす様々な障害を対象としています。また、その活動は病院内だけにはとどまらず、寝たきりになられた患者さん宅に出向いての『在宅訪問リハビリ』

なども行っております。在宅訪問リハビリの内容はと言いますと、身体の機能回復訓練をはじめとし、日常生活の動作注意点を家族の方々へのアドバイスや、手すりや段差などの住宅改造に対し、在宅介護支援センター職員と連携を取りながら、在宅での生活が快適になるように援助をすると言った事を行っております。

今後、何らかの理由で当院リハビリをご利用するとお考えの場合は、医師の指示が必要となりますので、最初に診察をお受けになられるようお願い致します。

